



平成22年7月1日発行

奥さん



大丸エナウエィン 株式会社

「こんにちわ奥さん」係

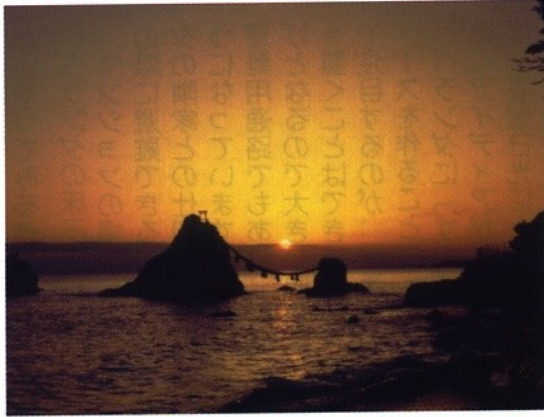
〒559-0022

大阪市住之江区緑木1-4-39

TEL.06 (6685) 5101

ダイヤル 0120-093-025

http://www.gas-daimaru.co.jp



左の写真は三重県伊勢市、二見浦の「夫婦岩」です。時期を間違えて掲載したのでは、と思われた方もあるかもしれません。日の出で名高い夫婦岩は、年賀状の素材にも使われ、正月に夫婦岩の間から日が昇ると思われている方も多いからです。ところが、実際に夫婦岩の間から日が昇るのは夏場、5月から7月頃なのです。冬至の前後、11月から1月頃まで岩の間から昇るのは実は、月なのです。

夏至の前後1週間は2つの岩の中央から日が昇り、天気が良ければ背景に富士山を仰ぐことができます。これこそ日本の景観といったところ。この頃になると、早朝の境内は観光客やカメラマンで賑わいます。

「はじめに」
「こんにちわ奥さん」係から

有力な説明は、イタリアの心理学者マリオ・ポンゾが20世紀はじめに提唱した「ポンゾの錯視」によるものです。ポンゾは、人間は物の大きさを背景に依存して判断していることを示しました。錯視にはいろいろなものがあります。同じ長さの線でも背景や別に加えられた線などによって長さが違って見える「だまし絵」のような図形をご覧になった方もあるでしょう。

朝日や夕日は、昼間の太陽よりも大きく見えます。月も同様で、真上よりも地平線近くにあるときの方が大きく見えます。時間によって太陽・月と地球との距離が変わるわけでもないし、ましてや太陽や月の大きさそのものが変化することはありませぬ。実際、双方を写真撮影し比べると、大きさは同じです。つまり、地平線近くの太陽や月が大きく見えるのは錯覚だと考えられます。ただ、この錯覚に対する説明については結論がでていないのです。

夕日は大きい 太陽・月の錯視

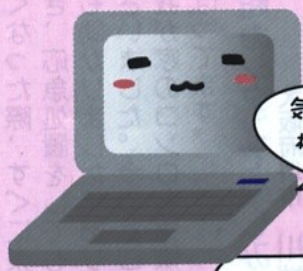


錯視が起こる理由も遠近法から説明する説があります。遠近法では、遠くのもの小さく、近くものは大きく表現します。遠くの物が近くのものと同様なら、遠くの物は大きいはずだと脳が思い込むのです。

視覚的経験も関係していると考えられます。例えば、遠近法です。私たちは遠近法に慣れており、ポンゾの錯視が起こる理由も遠近法から説明する説があります。遠近法では、遠くのもの小さく、近くものは大きく表現します。遠くの物が近くのものと同様なら、遠くの物は大きいはずだと脳が思い込むのです。

く見える理由もポンゾの錯視で説明できます。真上にある太陽や月には、その大きさを比較する物が存在していません。空に浮かんでいるだけです。しかし、夕日や朝日のように地平線近くにあると、ビルなど地上の建築物と比較して、その大きさを把握します。目に映る大きさは同じはずなのですが、比較対象物がある地平線近くの方が大きいと、脳が解釈してしまうのです。

ホームページ 開設のお知らせ



気軽に
検索してね

気になる商品の問い合わせ、
LPガスの開栓・閉栓の申込み、
もちろん新商品のご案内も！！

太陽光発電
冷暖房設備
ガス器具
オール電化
リフォームなど



アドレス

<http://living-poppo-garden.jp/>

移動

リビング ぽっぽ ガーデン